

楽しく学ぼう屋久島のこと

屋久島学

ソサエティ 2018 第6回大会

Society of Yakushimaology

■日時：2018年12/14(金)・15(土)・16(日)17(月)

■場所：12月15～17日 屋久島町総合センター(安房)
12月14日 屋久島町歴史民俗資料館(宮之浦)

入場無料

屋久島学ソサエティは、島に住む人と研究者が共に学びあい、
細分化された学問分野と島の現実を横断的に結んで真の問題解決のために必要な知識を共有し、
地域社会のために具体的に活かしていくことを目指します。

◆場所：屋久島町総合センター(安房)

15(土)

9:30開会
オープニング
「古織まつばんだ」

10:00～11:00
屋久島高校
環境コース発表

11:00～12:30
ポスターセッション
最新の屋久島研究の成果を
ポスターにして発表します。
ポスターは16日17時まで
掲示します

●テーマセッション1

13:30～16:30
「森林リモートセンシングの最前線と
ヤクスギ巨木林調査の可能性」
【屋久島研究講座】

16(日)

●テーマセッション2

9:30～10:30
「全貌を現しつつある
楠川区有古文書」

11:00～12:30
ポスター前ミニセッション
「屋久島低地照葉樹林の
生物多様性とその保全」
その他

●テーマセッション3

14:00～16:30
「屋久島のニホンザル
歴史と多様性をひもとく」
【屋久島研究講座】

●エクサカーション(講師と歩く観察会)

- ① 11:00～13:30 「楠川の里巡り」 安房一楠川間は送迎有
- ② 10:30～14:00 「地衣類観察会」 観察場所は安房周辺 詳細は裏面をご覧ください

●エクサカーション(講師と歩く観察会)

17(月) ③ 8:00～12:00 「西部林道のヤクシマザル」
集合解散：屋久島町総合センター(安房) バスで西部林道へ移動

14(金)

◆場所：屋久島町歴史民俗資料館(宮之浦) 開館9:00～17:00
18:00～18:30 トークライブ 「よみがえる農展—1950年代を生きた屋久島の猟師たち」

■主催：屋久島学ソサエティ

共催：屋久島町/(公財)屋久島環境文化財団/京都大学ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院

屋久島学ソサエティ
会員募集中
当日会場で受付ます

お問い合わせは
お気軽に
右記事務局まで

屋久島学ソサエティ事務局 手塚田津子 TEL/FAX 0997-44-2965

E-mail: office@yakushimaology.org

詳細はホームページをご覧ください <http://yakushimaology.org>

屋久島研究講座の受講証明書が必要なガイドの方は必ず事前に屋久島環境文化財団(電話0997-42-2900)へ予約してください

●テーマセッション

1 12/15 (土)「森林リモートセンシングの最前線と、ヤクスギ巨木林調査の可能性」【屋久島研究講座】

日本の自然を代表する存在の一つである屋久島の杉の巨木群にはいまだ謎が多く、長寿化の仕組みはもとより個体群の全貌も把握されていません。一方で全地球的な気候変動がもたらす災害の増加や環境の変化は、すでに森林の生態にも影響を及ぼしています。ヤクスギの保全を考えるには、現状を知り、継続的な変化を見守る必要があります。今回のセッションでは、実際の森林調査に加え、航空機や UAV (ドローン) に搭載した LiDAR (レーザー反射測定システム) や人工衛星の観測センサによる調査研究など森林リモートセンシング技術の現在と、ヤクスギの森、特に巨木の保全に焦点をあて、現状と将来を考えたいと思います。

講演者 加治佐剛 (鹿児島大学)「空から森を測るリモートセンシング」

高嶋敦史 (琉球大学)「ヤクスギ老齢木のさまざまな価値」

井田彰彦 (NHK エンタープライズ 自然科学番組)「航空リモートセンシングの屋久杉調査への応用」

総合討論座長：湯本貴和 (京都大学 霊長類研究所)

2 12/16 (日)「全貌を現わしつつある楠川区有古文書」

江戸時代中期から書き継がれ、集落で大切に保管されてきた 600 点余に達する楠川区有古文書は、政治、社会、産業など多岐にわたる島の歴史を知る貴重な史料です。NPO法人屋久島エコ・フェスタは、原本の記録データ化、目録の作成、解読に取り組んでいます。これまでの活動の経緯と、区有古文書の一点を例に挙げてわかりやすく解読・解説します。

登壇者 鎌田道隆 (奈良大学名誉教授)

古居智子 (NPO法人屋久島エコ・フェスタ理事)

久保和義 (NPO法人屋久島エコ・フェスタ事務局長)

3 12/16 (日)「屋久島のニホンザル：歴史と多様性をひもとく」

【屋久島研究講座】

屋久島でのニホンザル研究は、1950 年代、屋久島の人と自然の関係についての貴重な記録を残した、川村俊蔵と伊谷純一郎の予備的な調査に始まる。その後、本格的な研究が 1970 年代に始まり、西部林道を中心にして、複数の群れのサルを識別し、人間に馴らして詳細な行動を観察する、という調査を、何十人もの研究者が引き継ぎながら行うことで継続してきた。40 年以上に及ぶ長期継続調査で明らかになった、ニホンザルの社会変動の記録は、世界的にも貴重な資料である。一方、1990 年代後半から本格的に行われるようになった上部域の調査も軌道に乗り、サルたちがヤクスギ林で西部林道とは大きく異なる生活を送っていることが明らかになってきた。さらに最近では、山頂部のヤクシマダケ草原に住むサルについても、調査が進められている。このテーマセッションでは、植生の垂直分布に応じて変化する、屋久島の多様な自然の中で、ニホンザルがどのように暮らしているのかについての長期研究の成果を概観したい。また、最新の研究技術を用いた、屋久島のニホンザル研究のこれからについても議論したい。

講演者 服部志帆 (天理大学)「川村・伊谷の 1950 年代の屋久島のニホンザル調査」

杉浦秀樹 (京都大学)「西部林道での長期研究」

半谷吾郎 (京都大学)「屋久島のニホンザルの分布とヤクスギ林での長期研究」

本田剛章 (京都大学)「山頂部のニホンザルの生態」

澤田晶子 (中部大学)「最新技術を用いたニホンザル研究の将来」



●エクスカージョン 必ず各担当に問合せ・申込をしてください。コースの詳細をお知らせします

12/16 地衣類観察会 屋久島初の地衣類観察会!

植物と共生して光合成ができるようになった菌類、それが地衣類です。地球上で最初に上陸した生きものといわれ、灰色で小さく目立たないけれど、木の幹や岩の上、山頂や極地など、様々なところに生育して、生態系に重要な働きをしています。しかしその種の見分け方は、初心者には容易ではありません。今回は専門家と歩く貴重な機会ですのでぜひ参加をお勧めします。 定員 15 名 高校生以上

講師 山本好和 (大阪市立自然史博物館外来研究員)

盛口 満 (沖縄大学)

黒木秀一 (宮崎県総合博物館)

参加費:1人 100 円 (保険料) / ◎申込問い合わせ:屋久島コケの会 (小原) メール:mosfo3@gmail.com (先着順)

[地衣類ネットワーク、屋久島学ソサエティ共催]

12/16 楠川里めぐり 楠川集落の語り部が、集落内の

名所・旧跡をご案内します。楠川天満宮、田代善太郎の碑、楠川歩道など。楠川じょんこうにて昼食 1,000 円 (希望者のみ)

◎詳細はお問い合わせください。 定員 20 名

公益財団法人屋久島環境文化財団 Tel/0997-42-2900

12/17 西部地域のヤクシマザル 京都大学を中心

に永年調査研究が継続され、霊長類研究の重要なフィールドである西部地域で、研究者と共にヤクシマザルの生態を学びます。 定員 25 名 参加費 1 人 100 円 (保険料)

◎申込：屋久島町環境政策課

TEL:0997-42-0100 FAX:0997-42-1505

[自然に親しむ集いと共催]

◆宮之浦 屋久島町歴史民俗資料館 (月曜休館)

「よみがえる畺展 - 1950 年代を生きた屋久島の猟師たち」 会期 2018 年 12 月 14 日 ~ 2019 年 2 月 17 日

1950 年代の屋久島で猟師たちは屋久島の山々に関する細やかな知識をつかって、サルやシカ、イタチを狩猟していた。当時の猟師たちは動物たちと密接な関わりを持ちながら、独特の狩猟法や知識を発達させていた。とくにサルの箱畺は、屋久島にしか見られないたいへん貴重な文化遺産である。現役の猟師である笠井健志氏が再現した昔の畺 (サルの箱畺、シカ畺、イタチ畺) の展示と屋久島での狩猟研究のポスター展示を行う。

12/14 18:00 ~ オープニングイベント: 笠井健志氏による畺の説明と服部志帆 (天理大学) による 1950 年代の猟師の説明